

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 8人 算数 8人 理科 8人

第5学年 国語 14人 算数 14人 理科 14人

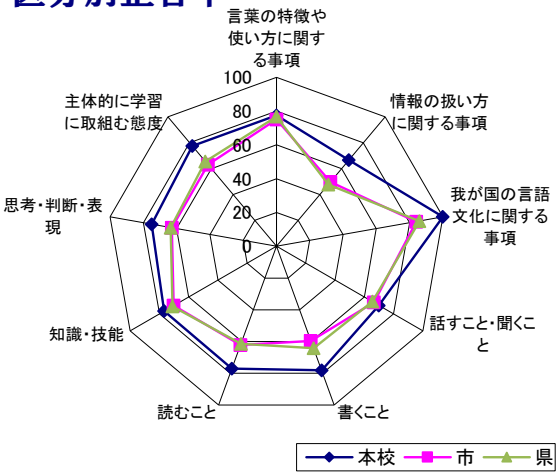
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.5	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	66.7	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	100.0	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	70.0	66.5	65.5
	書くこと	78.1	59.6	64.2
	読むこと	77.1	62.2	61.5
観点	知識・技能	76.8	70.2	71.1
	思考・判断・表現	75.0	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	77.5	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

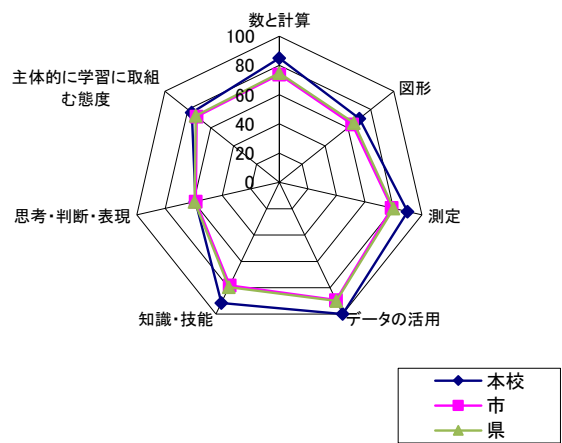
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて2.4ポイント上回ったものの、ほぼ同程度であった。 ●漢字の読み書きに関しては、県の正答率をやや下回る結果であった。中でも、漢字を書く設問では、3問中2問が正答率50%であった。 ○主語と述語を選ぶ設問、ローマ字の正しい読み方を答える設問では、本校の正答率が共に100%であった。	・漢字の読み書きに課題が見られるため、宿題や朝の学習の時間を中心に繰り返し練習を行っていく。更に、単元テストやまとめのテストを見据え、計画的に家庭学習に取り組めるよう指導していく。 ・言葉の使い方やローマ字の学習に関しても、引き続き学校全体で取り組んでいる復習プリント(マスターカード)やAIDリルに取り組ませるなど、次年度の学習に繋がるよう振り返りを行う。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて高く、17.1ポイント上回った。 ○大問5(3)の、文章を読み取り、空欄に入る言葉を答える設問では、本校の正答率が100%であり、県の平均を44.6%上回った。 ●大問6(1)の、話合いの様子を選ぶ設問では、県の平均をわずかに上回ったものの、本校の正答率が37.5%という結果になった。	・大問5(3)の正答率から、一昨年度から取り組んでいるマスターカードの効果が感じられた。引き続き、長文読解の演習問題を繰り返し行っていく。 ・国語や学級活動などの話し合う場面において、教室に掲示してある「学び合う発表のしかた」に従って、「理由は・・・だからです」の話し型を使って発言したり、相手の考えやその理由をよく聞いたりするように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	本校の正答率は100%であり、市の平均を16ポイント上回った。 ○漢字の偏を選ぶ設問では、全員の児童が正解することができた。	・進出漢字を学習する際に、ドリルを使って部首や漢字の成り立ちを確認したり、一人一台端末を活用し、部首の仲間分けを行ったりしたことによる成果が見られたと考えられる。引き続き、漢字に興味・関心を持たせるような指導を行っていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べてやや高く、3.5ポイント上回った。 ●話の中心を明確にするための工夫を選ぶ設問では、本校の正答率が県平均を5%下回る結果となったが、ほぼ同程度であった。 ○読み手に伝わるように、理由を挙げて自分の考えを書く設問では、本校の正答率が75%であり、県の平均を5.1%上回った。国語や学級活動の時間に、「発表のしかた」に従い、役割を決めて全員が参加できる話し合い活動を計画的に行ってきた成果であると考えられる。	・必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるよう指導する。 ・自分の考えを話したり、文に表したりする時には、聞き手に伝わりやすくするための工夫を考え、話す順序に気を付けたり、理由や例を挙げて話したりするよう指導する。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて高く、18.5ポイント上回った。 ○大問7の自分の考えを文章で書く設問では、100%の児童が、自分の考えを明確にして書くことができた。 ○6割の児童が「書くこと」の項目において満点をとることができた。	・国語や朝の学習の時間、マスターカードなどを使って、作文用紙の使い方、段落分け、文の構成について学習を振り返り、まずは正しい形で文章を書けるようにする。 ・普段から、自分の考えを文で表すことに苦手意識を持っている児童が多く見られるため、ミニ作文などの演習問題に繰り返し取り組ませることで自信をつけさせ、作文に対する抵抗を取り除く。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて高く、14.9ポイント上回った。 ○大問5の説明文を読み取る設問では、全ての小問において県の正答率を上回った。 ●大問4(2)の物語文の場面の様子を読み取る設問では、県の平均を9.8ポイント下回り、正答率が12.5%であった。	・文章を読む時に、時間や場所、様子を表すキーワードを見つけながら読み進めていくよう指導していく。 ・読書をより習慣化させ、長文への抵抗を無くしていく。 ・引き続き、マスタープリントなどの活用問題に取り組ませ、文章読解力を伸ばしていく。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	85.0	73.8	74.8
	図形	70.0	63.7	65.3
	測定	90.0	78.9	80.1
	データの活用	100.0	89.3	90.0
観点	知識・技能	91.5	78.3	79.5
	思考・判断・表現	58.9	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	76.6	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

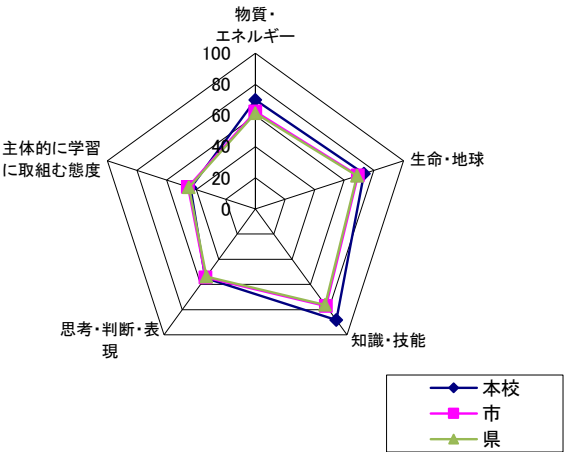
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて高く、11.2ポイント上回った。 ○大きい数・小数・分数や四則計算については全体的に県の高正答率を上回り、数の仕組みや計算方法について十分な理解と定着が図れている。 ●大問6暗算の仕方の説明では、県の高正答率51.4%よりかなり低く、26.4ポイント下回った。考え方を説明することについて、課題が見られる。 ●大問8(2)の口を使って乗法の式に表す問題では、県の高正答率を27ポイント下回った。	・基本的な計算方法は身につけているので、答えの求め方の根拠について全体で確認を行うとともに、考え方を説明する力がつくよう、普段の授業で子供同士で説明し合ったり、文章で表したりする活動を取り入れる。
図形	平均正答率は、市の平均と比べてやや高く、6.3ポイント上回った。 ○大問9(1)(2)は正答率100%で、円の直径や、半径を使った長さの求め方についてよく理解している。 ●大問10の作図は、市の平均を13.1ポイント下回り、校内正答率は75%だった。また、大問15(1)円の半径とコンパスの使い方についての問題も正答率は75%となり、作図に関して苦手意識が見られる。 ●大問15(2)なぜ二等辺三角形と言えるのかを説明する問題では、正答率が0%となった。図形の定義についての理解とそれを説明することに関して、課題が見られる。	・基本的な作図の問題に繰り返し取り組むことで、コンパスを用いた正確な図形が描けるようにする。 ・図形の定義に対して理解を深めるため、プリントやドリルを用いたり、掲示して視覚的に情報が入るようにしたりなど、繰り返し内容に触れる機会を増やして指導する。
測定	平均正答率は、市の平均と比べて高く、11.1ポイント上回った。 ○大問11(1)(2)は正答率100%で、時刻と時間についてよく理解している。 ●大問13長さ・重さの問題では、(2)が市の平均を5.1ポイント下回った。身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使って表すことに関して苦手意識が見られる。	・身近にあるものの重さを量ったり、正しい単位を用いて表したりすることで、量や大きさについて実感を伴った理解が図れるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均89.3%や県の平均90%を上回り、100%となった。 ○棒グラフで、1目盛りの表す数や、どの項目が何番目に多いかなどを正確に読み取ることができている。	・復習問題に継続して取り組んでいく。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.0	62.5	61.5
	生命・地球	73.3	69.2	68.6
観点	知識・技能	88.3	77.2	76.3
	思考・判断・表現	55.0	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	43.8	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均と比べて高く、7.5ポイント上回った。 ○大問1(3)2(1)3(1)4(2)の正答率100%であった。植物の子葉、昆虫の育ちやからだのつくりの基本的事項をよく理解している。 ●大問5(2)6(1)の太陽と地面のようすについては、市の正答率約35%より低く、約22ポイント下回った。日なたと日かげの地面の温度をもとに日かげの方が涼しく感じる理由を推測したり、太陽の動き方をもとにして影のでき方を説明したりすることについて課題が見られた。	・観察、実験などを通し、観察結果やデータの差異点や共通点を比較し、既習事項や自身の生活経験と結び付けて、仮説や予測を立てる活動を充実させる。 ・分かったことについて文章で表したり、言葉で説明したりする活動を取り入れる。
生命・地球	平均正答率は、市の平均と比べて高く、4.1ポイント上回った。 ○大問7(1)(2)9(1)は正答率100%であった。光のせいしつ、風やゴムのはたらきの基本的事項についてよく理解している。 ●大問12(3)正答率0%で、市の正答率26.5%を大きく下回っている。方位磁針の針として使えるかどうかを判断し、その理由を記述することに課題が見られた。	・観察結果から差異点や共通点を基に、問題を見出す力を育て、言葉や文章で表現する活動を取り入れていく。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」「学校の宿題は、自分のためになっている」という質問に肯定的に回答している児童の割合はいずれも80%を上回っており、家庭学習の意義や大切さをよく理解し、しっかりと取り組んでいることが分かる。また、「授業を集中して受けている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができています」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問に肯定的に回答している児童の割合は100%であり、授業中の学習に意欲的に取り組んでいることが分かる。今後も継続していけるように声かけを行いながら、深い学びにつながるよう指導の充実を図っていききたい。

○「学校のきまりを守っている」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という質問に肯定的に回答している児童の割合は100%である。友達との関わりや学習以外のことについても、積極性や関心が高いことが分かる。引き続き、子どもたちの良さを生かしながら、よりよい自分を目指した学校生活を送れるよう、指導にあたっていきたい。

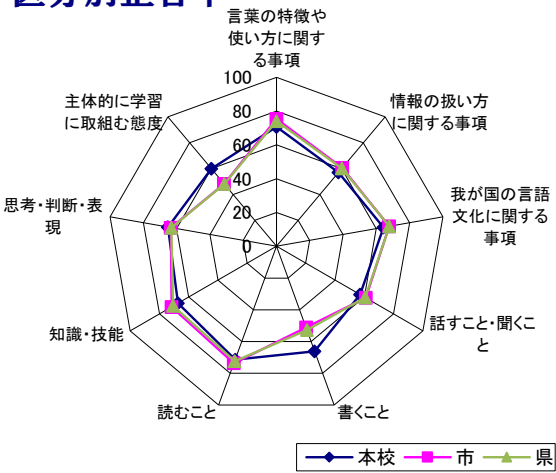
○「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問に対して、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した割合が、市の平均を10ポイント以上上回っていて、日頃から読書に親しむ児童が多いことが分かる。図書室の利用状況などから、物語を好んで読む児童が多い傾向にあるが、今後は既習事項と関連した本を紹介したり、自主学習に活用させたりするなど、読書を通して学習への意欲を高めていけるよう、図書館司書教諭と連携を図るなど、学習への関心をさらに高める取り組みを行っていきたい。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という質問に対して、市の平均と比べて時間がやや長い傾向が見られる。家庭での時間の使い方について、子どもたちに計画を考えさせたり、学年だより等を通じて呼びかけたりするなど、保護者の協力を得られるように情報を共有していきたい。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.7	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	57.1	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	64.3	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	57.1	61.0	60.7
	書くこと	66.1	51.2	52.8
	読むこと	71.4	73.7	72.4
観点	知識・技能	67.3	71.7	70.6
	思考・判断・表現	65.2	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	60.0	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

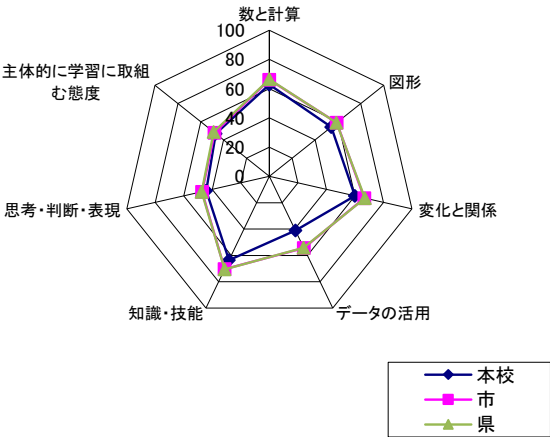
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は70.7%で市の平均正答率と比べ4.7ポイント低いと同程度であった。 ●漢字の読み書きは個人差が大きく、読むことに関しては県の平均正答率をわずかに下回っている結果であった。 ○書くことに関しては、県の平均正答率を上回っている設問が3問中2問であった。 ●言葉に関しては、連帯修飾語についての理解が不十分であった。 ○連用修飾語についての理解は県の平均正答率と同程度であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の習得については、宿題や朝学習等で繰り返し練習に取り組む。また、単元ごとのミニテストや学期末のまとめテストを計画的に実施することで定着を図る。さらに個人差が大きいので、下の学年の漢字についても自主学習等を利用して復習を行い定着を図っていく。 ・言葉に関する理解については、学校全体で取り組んでいる復習プリント(マスターカード)を利用して既習の学習内容についても繰り返し復習することで、定着を図っていく。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は57.1%で市の平均正答率と比べ、わずかに3.4ポイント低いと同程度であった。 ●漢字辞典の使い方についての理解が不十分であった。 ○情報と情報との関係を理解して解答する設問の正答率は県の平均正答率と比べて同程度か上回っている。しかし、記述式の設問に関しては、誤答が多く無解答も見られるので課題が見られる。	・漢字辞典や国語辞典の使い方に関しては、全校的に苦手の傾向が見られるので、発達段階に応じて適切に指導していくとともに、日頃から辞書を使うことを習慣化していく。 ・読み取った情報を正確に活用できるように、学校課題である「だれもができた！わかった！を実感できる、つながりのある授業を目指して」の実践を適切に行い、言葉による見方・考え方を働かせながら、課題の解決に取り組ませる。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は64.3%で市の平均正答率と同程度であった。ことわざの意味を知り、正しく使うことが、ほぼ理解できている。ことわざや慣用語については、マスターカードを利用して繰り返し復習をしてきた結果である。	・ことわざや慣用語については、マスターカードを利用して繰り返し復習を重ねていったり、自主学習等で取り組んだりすることで言語文化に触れる機会を増やし理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は57.1%で、市の平均正答率をわずかに3.9ポイント下回っているものの、同程度であった。 ●話合いの内容を聞き取って、話の中心を捉えたり、意見を述べるときの工夫に気付くことに課題が見られる。 ○司会として意見をまとめる記述式の設問の正解率が64.3%で県の正答率を17.8ポイント上回っている。	・学校課題にもある「つながりのある授業」を実践し、「話すこと・聞くこと」のねらいを明確にした授業を展開していく。学年の発達段階に応じた話合いの形式を工夫して、授業や日々の教育活動の中で取り入れることで、「話す・聞く」力を向上させていく。 ・本校の課題としてどの学年も、特に「聞く」ことが苦手なので、話し手の意図を考えながら聞くことを習慣化させたい。
書くこと	○平均正答率は66.1%で、市の平均正答率を14.9ポイント上回っている。 ○指定された長さで文章を書いたり、段落に分けたり、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」の意識したりして文章を書くことがほぼ身に付いている。国語を中心に発達段階に応じた指導を丁寧に積み重ねてきた結果である。 ●正答率は県の平均正答率を上回っているものの、相手の考えに対して自分の感想を書くことは、十分とはいえない。また、記述式の設問については自信をもてない児童が見られる。	・今後も他教科や行事と関連を図り、作文、発表原稿など文章を書く機会を増やし、書くことに慣れさせるとともに、適切な意見や感想を文章にまとめる力をつけていく。また、学年に応じて書くために必要な言語力を高める指導をしていく。 ・書くために必要な語彙を増やすような言語環境作りを心掛ける。 ・個人差が出やすい領域なので、個別指導に力を入れていく。

読むこと	○平均正答率は71.4%で、ほぼ市の平均と同程度である。 ○説明文の読み取りは、市の平均正答率を上回るか同程度であった。 ●物語文の読み取りは、市の平均正答率を下回る結果であった。特に登場人物の気持ちを捉えたり、読む取ったことから感想をもつことに課題が見られた。	・読み物の教材ではねらいを明確に示して学習することで、読解力を高めていく。 ・読書活動を充実させ、特に課題の見られる9類の読書を推奨していく。 ・地域の読み聞かせボランティア団体を活用し、読書に対する関心を高め、読解力の向上につなげ、さらに感想や自分の意見をもてるようにする。
------	--	---

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.8	66.1	66.4
	図形	54.1	58.9	58.8
	変化と関係	60.0	66.6	67.0
	データの活用	41.1	54.4	54.2
観点	知識・技能	63.6	70.4	70.6
	思考・判断・表現	44.3	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	46.9	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

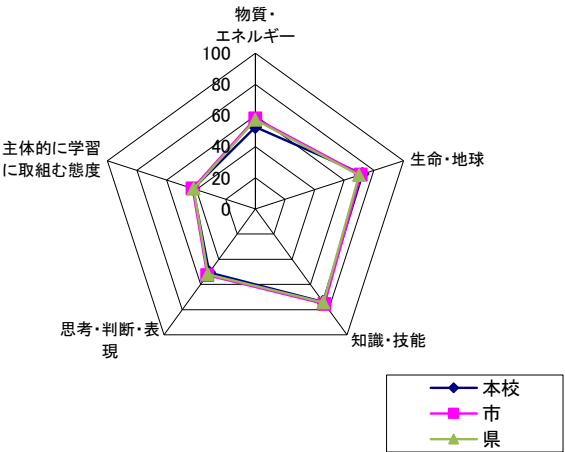
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べてやや低い。3.3ポイント下回っている。 ○大問番号9(4)わり算・計算のきまりの問題では、県平均が48.1ポイントと低いのにに対し、64.3ポイントと15ポイント以上高い数値になっている。計算のきまりを理解している児童が多い一方、基礎的な事項が身につけていない児童も見られる。 ●分数・小数についての問題では課題が見られる。 ●大問番号6(3)と(4)帯分数－真分数や小数×整数の正答率が10ポイント以上低い。	・基礎的な計算のやり方を復習プリントなどを用いて定着させるとともに、十分に理解している児童には発展問題に挑戦させ、意欲を高める。 ・小数の計算やかけ算の筆算の計算方法について、授業の中で繰り返し復習を行うとともに、個別につまずきを分析し指導を行う。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて低い。4.8ポイント下回っている。 ○大問番号11(2)の正答率が高く、県の平均を15ポイント以上、上回った。面積の単位について、よく理解している児童が多い。 ●角度や図形の問題において全体的に10ポイント以上低い傾向がある。	・基礎的な図形の問題についての定着を図るとともに、ICTなどを活用し角や図形の理解を深める。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と比べて6.6ポイント下回っている。 ○大問番号7(1)の正答率が78.6ポイントであり、基準量を求める除法の文章問題をあらわした図を正しく選択することができ、簡単な場合の割合についてよく理解している。 ●変わり方調べでは、2つの数量の関係を式で表したり、一方の値からもう一方の値を求めたりすることについて課題が見られた。	・変わり方調べに関する問題に慣れさせるため、問題を解く時間を確保し、表や図などを活用して理解の定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べてかなり低く、13.3ポイント下回っている。 ●大問番号16～17の折れ線グラフと表から読み取る問題では、すべての問題において平均点が低い。また、記述の問題に関しては、全員誤答である。	・練習問題を繰り返し、個に応じた支援をしていく。 ・授業の中で、式と計算だけではなく、言葉を使って説明を書かせるようにしていく。 ・発展問題や記述の問題にも取り組める時間の確保をしていく。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	52.6	58.1	57.2
	生命・地球	72.3	71.1	70.0
観点	知識・技能	73.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	50.5	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	42.1	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均より低い。 ○湯気が液体であるかを問う問題では、県の平均正答率を20.6ポイント上回った。 ○空気のあたためり方をもとに実験の結果を推測し、あたためられた空気の動き方について説明する問題では、県の平均正答率を15.6ポイント上回った。 ●水を加熱するときに沸騰石を入れる理由を問う問題では、県の平均正答率を41.6ポイント下回った。	・理科に関する各事象の名称や、その内容等、既習事項を繰り返し活用することで、基本的な知識理解の向上に努める。 ・観察、実験などに関する基本的な用語、技能を身に付けるようにする。 ・実験を行う際は、基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。また、実験器具や道具を使う理由についても明確にし、理解を深められるようにする。
生命・地球	平均正答率は市の平均よりやや上回った。 ○水の流れをもとにビー玉の動きを推測する問題は、正答率100%であった。 ○方位磁針の使い方を問う問題は18.5ポイント、満月の1日の動きを問う問題は16.6ポイント、県の平均正答率を上回った。また、全17問中11問が平均正答率70%を超えた。 ●日なたに置いた水の量が減る理由を蒸発によるものと理解しているかを問う問題では、平均正答率が71.4%で、県の平均正答率を15.7ポイント下回った。	・今後も身の回りの生物や現象など児童にとって捉えやすい内容について、基礎的な語句の定着や知識理解の向上に努めるとともに、それらを活用する場を設ける。 ・実験を行う際は、基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。また、実験器具や道具の使い方、使う理由についても明確にし、理解を深められるようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校やじゅくの決められた決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合が市や県の割合を大きく上回っている。家庭学習が習慣化され、計画的に学習が進められていることが分かる。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」という質問に肯定的に回答している児童の割合が市や県の割合を上回っている。対話的な学習に対して意欲的なことがうかがえる。今後も、話し合い活動を取り入れ、自分の考えを深めたり広げたりする経験を重ねていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「しょう来のゆめや目標をもっている」という質問に肯定的に回答している児童の割合が、市や県の割合を上回っている。自己肯定感が高く、将来の夢や目標をもっている児童が多いことが分かる。引き続き、一人一人のよさを認め伸ばしていけるような声掛けや働きかけをしていきたい。

●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答している児童の割合が、市や県の割合より下回っている。授業において、めあてやまとめを書くことは習慣になってきたが、振り返りについては、実施できていないことも多かった。めあてに対して、それぞれが振り返る時間をしっかり確保できるようにしていきたい。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画を見たり、聞いたりしますか」の質問に、1時間以上と回答した児童の割合が、市や県の割合よりも高く、その中でも「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童の割合が高い。テレビゲームにおいても、4時間以上と回答した割合が高い。家庭での過ごし方について、児童に振り返りをさせたり、保護者にも協力を呼び掛けていきたい。

宇都宮市立篠井小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・だれもが「できた！」「わかった！」を実感できる、つながりのある授業の実践	○宇都宮モデルを意識した授業により、基礎・基本の定着を図る。 ・課題をはっきり、じっくり活動、すっきり納得させる展開を心掛ける。 ○個に応じた学習指導を充実させる。 ・学習掲示物やヒントカードの提示、TTなど授業形態を工夫する。 ○目的を明確にした学び合いの場を設定する。 ○一人一台端末等のICT機器を効果的に活用する。 ○授業研究会において効果的な指導について検討する。	・「授業の中で、目標がしめされている。」の肯定回答率は4年88.9%5年100% ・「授業の最後に、ふり返る活動を行っている」の肯定回答率は4年66.7%5年81.3% ・「学習に対して、自分から進んで学習している」の肯定回答率は4年66.6%5年93.8% ・「授業では、話し合う活動を行っている。」の肯定回答率は4年66.7%5年100% ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」肯定回答率4年100%5年87.6%

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
--------------	--------	-----------

・全体として学習の内容を概ね理解しているものの、基礎的な内容が十分に身についていない児童が見られ、5年生については、個人差が大きい。 ・国語では、話す・聞く領域、算数では、図形の内容に課題が見られる。 ・どの教科においても、考えや理由を説明する問題に苦手な傾向が見られる。	・個に応じた指導の工夫 ・だれもが「できた！」「わかった！」を実感できる授業の実践 ・表現力を高める指導の工夫	・低学年からの、基礎・基本の定着を意識し、小テストで理解度を図るなどして課題を早期に発見し、指導に生かしていく。 ・習熟度学習、朝の学習でのTT指導など、指導体制を工夫するとともに、AIドリルや復習プリントなどを活用し、個に応じた指導を推進していく。 ・学級内で、お互いに発表しやすい雰囲気づくりに努め、話せる・聞ける関係を築いていく。 ・発達段階に応じて話し方・聞き方の型を指導していき、誰もが発表できるようにする。 ・ICTを効果的に活用し、実感を伴った理解が図れるようにする。 ・学校全体で取り組んでいる復習プリント(マスターカード)を活用し、苦手な分野を繰り返し復習していく。 ・授業の中で、友達と考えを伝え合ったり、説明し合ったりする機会をつくり、自分の考えを言葉にする機会を多く設定する。 ・ねらいに即した振り返りを行い、何がどう分かったかを詳しく書かせる。
---	--	---